

総務産業常任委員会会議録

- 1 日 時 令和6年1月12日(金)
11時30分開会 12時10分閉会
- 2 会議場所 役場3階 第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：中河つる子 副委員長：田村幸紀
委 員：只野敏彦、鈴木孝寿、中島里司、深沼達生
議 長：山下清美
- 4 事務局 事務局長：大尾 智
- 5 議 件
(1) 議会報告会と町民との意見交換会のまとめについて
(2) その他
- 6 会議録 別紙のとおり

【開会 11 : 30】

(1) 議会報告会と町民との意見交換会のまとめについて

委員長（中河つる子）：只今より総務産業常任委員会を開催する。1つ目が議会報告会と町民との意見交換会のまとめについてである。先ほど全員協議会で議会運営委員会から説明があった、意見交換会で出てきた意見の総務産業にかかる質問について、事務局の方で委員会別にまとめてくれていて、その中の部分について、まとめの確認、検討、参考、承りとあるけれども、それぞれに対してコメントをどのようにするかということ、そしてそれを議運に報告するという内容についてであるが、これについて、今日どこまでできるか、また改めてやる時間を設けた方がいいと思うがいかがか。今日はこの中に入るには時間が短すぎると思うが。

只野委員：次回でよろしいのでないか。

委員長：次回は何日頃がよろしいか。

只野委員：委員長、副委員長と事務局と議会運営委員会もあると思うので、協議して後で日時を教えていただければいいと思う。

委員長：日にちについては委員長と副委員長と事務局で決めて後ほど皆さんに周知する。

事務局長（大尾 智）：今日お配りしたばかりなので、全部に目も通せていないと思うので、意見の区分けの部分から含めて、うちの委員会ではないのではないかとということもあったりするかもしれないので、改めて、まずは吟味していただいた方がいいのではないかと思う。

委員長：数字は皆さん目を通してもらって、違うと思うところがあれば見てもらってよろしいか。次回の時にということで、内容を吟味しながら総務産業で該当するかしないかも含めながら、その時の委員会で話をすることによってよろしいか。

中島委員：区分けは当然しなければならないだろうが、区分けした場合は、今委員長が言われたように、総務産業常任委員会に該当するかしないかだけの判断でいいのか。項目を一つずつ見たときに、町側へ直接このまま伝えなければならないこと、町も含めて対象になるのかどうか、その辺誰に聞いていいのかわからないけれども。

事務局長：事務局で想定していたのは、3つの区分けをまず考えていただいて、検討というところに該当させる項目になった場合に、どういう形で進めていくのか、委員会の中で検討していただいて、これは町に言っていくべきだろうというようなコメントという欄を設けてあるが、町に申し出ていくという部分で整理していただければ、

それを厚生文教と全体的に取りまとめて、議会としてもう一度議運で揉んで、議会として町民との意見交換会でこういう要望があるので、議会として町側に要望するというようなやり方になると思うので、まずは検討というように区分したものについて、どう取り扱うかを委員会の中で考えていただければと思う。ただ、検討という項目になっても、全部が理事者に要望するというのではなくて、今後、委員会の中で、例えば所管事務調査で議論を深めていきたいとか、そういう分け方もできると思うので、その辺は細かく考えているわけではないけれども、そういう分け方、区分の仕方ができるというように思っている。

委員長：そういうことで、次回の会議の日程は後日連絡するとして、それまでの間に委員の方各自で項目を見ながら考えてもらうということによろしいか。

鈴木委員：いいけれども、何か所か、例えば芝生のある場所が欲しいとは、何言っているのか全然わからない。円山公園については、何を協議するのかこれだけではわからない。

事務局長：抽象的な表現は承ったということでもいいのではないかな。これを読み取って検討してくというのは難しいと思う。私もこれ以上書けない。グループ分けをしてやっているから、あとはそのグループに入った委員に補完してもらうしかないということである。最初の想定では付箋にまず書いて、それについて発言していただくという手順があったけれども、途中から自由なフリートークになってしまって、付箋の説明がなかったものもたくさんあると思う。書きっぱなし、言っぱなしのことが多々なので、読み取れない部分は承りでいいのではないかな。分かりやすいものについてはどうするかというのを町側に要望出してくるとか、それともこれから所管調査等をやっていききたいとか、そのような整理をしていただければいいと思う。

委員長：皆さんの記憶も思い出していただきながら、参考に意見を出してもらいながらということで次回の時にやってもらうということによろしいか。

（「はい」との声あり）

（２）その他

委員長：それでは、議会報告会の件は終わる。次に、道外研修についてである。先ほど説明があったように、道外研修についての予算査定が来週から町長査定に入ることによって、その前に目的地などをはっきりさせると予算に組み込まれるという今までの経過の元で、電話でもお願いしていたが、それぞれの委員の方の、どういう目的でどういう所に行きたいかというのを出していただくということで、各委員の方の意見があればそれぞれお願いします。

只野委員：伊那市を言っていたけれども、伊那市だけではなくて他の近隣で行ける場所があればということなので、もう少し探してほしいと言われたので、長野県の宮田村というところがある。宮田村は中河委員長と話している時に、委員長は人口が清水と

近い方がいいという話をされたけれども、そこは8,800人で村だけれども清水と同じような人口で、調べてみると一番住みたい村、移住したい村というところのナンバーワンになっている村なので、そういうところではそこも参考になるのではないかと、あと長野県で佐久市、人口的には市なので少し大きいけれども、そこが医療的にはかなり注目されているところで、病院とか医療体制がいいというので、そこも参考になるというように思っている。私としては伊那市が1番で前に説明したとおりである。

深沼委員：移住関係で見たら長野県とか兵庫、静岡、この辺が今移住に関して人気のあるところで、静岡に関しては海が近くて街並みがいいという感じで移住する人が多いのかと思う。長野県を見ると、県自体が移住定住の部分で市ばかりが載っていた。今言われた伊那市もだいたい6万人ぐらいの人口で、どこかないかと思って調べたけれども、なかなか清水に近い1万人切る所が見つからなかった。清水と同じ人口でというところで探しきれなかったというのが現状である。

鈴木委員：私は最初から徳島県の神山町という話をさせていただいたけれども、同じものばかり見てもしょうがないので、私はすでにプランを考えているけれども、東京にまず行って北区の渋沢栄一記念館を見させていただいて、その後静岡県の熱海の災害復興から2年、3年経って、すごくリンクするのと、うちの町はまだそんなに家は流されなかったけれども、家が流された後はどのような対応をしているのかというのを見てみたいというのと同時に、その前後であるが、静岡県の清水町が3万人ぐらいの町で元の姉妹都市、ここは今静岡県でナンバーワンの子育て支援及び定住移住で人口が伸びている町である。まだ清水町の方々と交流している方もたくさんいるという部分もあるので、改めて交流を再開するわけではないけれども、近くに行くのであれば、静岡県のナンバーワンの定住移住の町であったり、子育て支援のナンバーワンと言われている町なので、そこを見学させていただきたい。同時にあの辺は熱海もそうであるが、災害に関しては富士山の噴火に対する備えというのは非常に先進的で、防災の関係もできるということで、東京から静岡入って、静岡から大阪、神山町の徳島県に入ると。神山町は人口7,000人前後ぐらいのところ、周りに観光地があるわけでもない、何もなし、山村、山の中の町で、総合計画も1回目は普通に作ったけれども、本当に地域に必要なものを作っていくということをやったり、例えば大企業のサテライトオフィスというのは、何十年も前からやりだしている。子育ても含めて、外国人も含めて今たくさん人が来ている、一旦減り始めたけれども見直されていい感じになっている。そこがやっていることは、基本的には人作りだと明言しているところなので、キーマンをしっかり育てて、町のリーダーを育てるというのと、それを含めてまちづくりという理想的な動きをされているので、そこは議員である間には一度は行きたいとずっと思っていた。あと一か所くらいできるけれども、北区行って、熱海行って、前後するけれども静岡清水町行って神山の流れで行くと、東京から入って大阪から帰ってこられるというラインができると思う。防災とまちづくり、定住移住も含めての関係が全部一通り見られるプランになると考えている。

田村委員：鈴木議員が言われた神山町を聞いて調べたわけではなくて、今清水町に求められているのは移住定住であったり、ふるさと納税や企業版ふるさと納税を絡めた北海

道といえばサテライトオフィスというところで、色々調べたら徳島県の神山町にたどり着いた。中身を見るとなるほど、これからICT、DXというのは必ず必要となってくるものなので、徳島県神山町というのはとても見てみたいところだと感じた。その他に渋沢栄一関連で、通過する形になると思うけれども、深谷市とか北区というのは移動の通過の段階で寄れば良いというように感じた。この2点である。

委員長：今聞かせてもらった通りだと思う。この研修について、やはり何を目的にするかというのが一番大事なところであるので、今皆さんが言われた中で、移住定住、それから防災、人づくり、住みたい村、そういう目的の中で皆さんが色々考えてこられたという事で、この中から皆さんと一緒にどこが良いというのを選べるか。

事務局長：先程の鈴木議員の話の内容でいくと3泊4日でないと行けないくらいだと思う。

委員長：暫時休憩する。

【休憩 11:53】

【再開 12:05】

委員長：休憩前に引き続き会議を開く。総務産業常任委員会では今出た中から副委員長と相談して決めるということにする。次に、所管事務調査で土木建設関係の進捗状況を見るということであったが、その日程について事務局に説明願う。

事務局長：まだ建設課と話ししていないが、だいたいこの辺でということをお願いできれば、それで建設課と詰めていきたいと思う。中身としてはまず机上で令和5年度にやった工事等の説明をいただいて、その後現場を1、2箇所見るという感じで、土木と建築1箇所ずつ、日程的には10時開始で説明1時間、現場1時間の午前中ぐらいでよろしいか。

委員長：2月1日から2月9日ぐらいの間で担当課と相談してみるということをやりたいと思う。その他皆さんからなければ内容についてはこれで終わる。次回の委員会は事務局と副委員長との話しの後に連絡する。それでは、以上で総務産業常任委員会を終了する。

【終了 12:10】